



あかたけ

学校通信

練馬区立大泉西小学校
学校通信 5月号
令和2年5月11日発行
編集責任者 校長 青山 直志

<http://www.ooizumi-w-e.nerima-ky.ed.jp/> 学校HP 毎週更新中!

強い個

校長 青山直志

四月七日、日本政府は緊急事態宣言を発令しましたが、海外メディアからは強制力も罰則もないと厳しく非難されました。

確かに、ヨーロッパ諸国ではロックダウン（都市封鎖）が実施され、街中に入っ子一人いない風景が報道されたり、インドでは警察が外出禁を破る市民を暴力をもって罰し、それが映像として流れたりもしました。新型コロナウイルスの感染拡大が重篤な国々に比べると、日本は死亡者数において楽観視しがちであるのかもしれないが、日に日に増えていく感染者数を見てみると、何と生ぬるい政策かと批判したくなるのではないでしょうか。

お隣、中国では感染者が出たアパートがアプリの地図上で確認できるようになっているそうで、プライバシー保護なんぞ無視するかのような徹底した情報公開が行われています。

このような非常事態時には、強権的で独裁的な政府の方が機能するのかもしれない。ふと、高校時代の政治経済の授業で「衆愚政治」という言葉を教わったことを思い出しました。

民（衆）はもともと愚かであり、各々がエゴイズムを追求し、気まぐれな群集心理によって国政が左右される腐敗した民主政治、と辞書にはあります。私たち市民が主人公である社会を構築する思想であるはずの民主主義に、陥りやすい危うさがあることを古代ギリシャでは既に指摘していました。

では私たちは今、強制力をもつ「強い政府」を求めるのか。ここで、ドイツのメルケル首相の演説に強く胸を打たれます。「私自身、自由な行動を制限することがいかに大変なことかよくわかっています。」彼女は旧東ドイツ出身で、一九八九年のベルリンの壁崩壊によって手に入れた自由の意義を最も深く理解している一人なのではないでしょうか。

「ウイルスとの闘いは、一人が当事者です。ルールを守ることによって誰もが命を救えるのです。」

本校の子供たちも、自由に出歩けない、友達にも会えないということに胸が痛みます。が、外圧によって行動制限するのではなく、自らの意思で自らの行動を律する「強い個」に一人一人がなっていきたい。

私たち学校は今、子供たちに直接語り掛けることが出来ません。この臨時休業の期間、どうか保護者の皆様、お子さんが「強い個」を獲得できるように導いていただきたい、そう願っています。



ベルリンの壁 FREEDOM

臨時休業中の諸対応について

副校長・片柳尚子

1、臨時休業中の電話連絡

5月の臨時休業期間中に、担任よりご家庭に電話をいたします。お子様とお話できたらと思います。また、ご家庭からのご質問等がありましたらご連絡ください。担任の出勤日は学習計画表をご覧ください。

2、ホームページ

4月同様、毎週木曜日に学年からメッセージを掲載しますので、ご覧ください。

3、地域巡り

ご家庭の場所を把握させていただくこととパトロールを兼ねて、学級担任が地域巡りを行います。尚、各ご家庭を訪問させていただくことはありません。